広報紙紹介

住み慣れた地域で
誰もが安心して暮らせるまちへ

青森県八戸市　下長地区社会福祉協議会

会報誌「結んでひらいて」


下長地区社会福祉協議会（社協だより）第27号　令和8年（2026年）3月25日発行

地域と共に！　人と人を繋いで！

手作り雑巾@寄附しちゃいました!!!（高齢者サロンで一針……一針）

「千田わくわくシニア」高齢者サロン集いの一貫として（現在の寄附数=13,000）
2025年10月14日　下長小学校&下長子ども園に150枚ずつ贈呈

◀下長小学校へ

▶下長こども園へ

ひとり暮らし
温泉ふれあい交流会

令和7年8月21日
奥中山高原センター内
煌星（きらぼし）の湯

参加者
40名

一等賞ゲット!で
ニコニコ笑顔の
★吉田律子さん

ラッキーデーのお二人

【くじ引きで大当たり】
佐々木勝紀会長賞受賞
★本田陽子さん

◇みんなで支え合う地域づくり◇

『地区社会福祉協議会（地区社協）は、最も身近な福祉活動の拠点です』

地区社協の主な活動として、◎**一人暮らし高齢者等の見守り活動** ◎**高齢者サロン** ◎**子育てサロン** ◎**一人暮らし高齢者等の会食会や日帰り旅行**など、地域のほのぼの交流協力員が、一人暮らし高齢者等の世帯を定期的に訪問し、安否確認や日帰り旅行に出かけたり、交流を図っています

4

青森県八戸市の下長地区社会福祉協議会が発行する、社協だより会報「結んでひらいて」を紹介します。

同会報の21号から現在27号の発行まで手掛けている、同会の氣仙れい子さんにお話をお聞きしました。

――はじめに、八戸市下長地区社会福祉協議会について教えてください。

氣仙さん　今から29年前の平成9年、八戸市内の内舟渡、千田、下長町、石堂一丁目・二丁目・三丁目の6町内会により、下長地区連合町内会が発足しました。

下長地区社会福祉協議会には、一定の地域区画から選出された、民生委員児童委員（31人）や、一人暮らし・高齢者世帯を見守る「ほのぼの交流協力員（30人）」がいます。半数の委員が兼務して活動しており、活動の中身はほぼ同じです。そのほか、地区住民の代表や、シニアクラブ員、ボランティア仲間の協力、ご支援者により、日々活動しています。

――温かみのある地域の様子が見えてくるようですね。日々の活動が行われるなか、

会報「結んでひらいて」は、どんな趣旨で発行しているのでしょうか？

氣仙さん　こうした活動を1年間取りまとめて、会報誌に掲載するのが私の仕事です。私も、民生委員児童委員、ほのぼの交流協力員、下長地区社会福祉協議会理事、千田町内会シニアクラブ副会長など25年兼務しながら、会報の担当として活動しております。

　会報誌「結んでひらいて」は、「地域をもっと元気にしよう！」「まちづくりの原動力になろう！」が趣旨で発行しています。住民の皆さんからの長年の声で、

「毎年何をやっているのか、おら達（だち）にはよく見えない」

　との意見が多く出ていました。そこで、地域の行事やイベント、一人暮らしや高齢者世帯の支援などの活動を、21号（２０１９年）から本格的に広報誌に掲載して、地区住民に周知をすることで、まちづくりへの機運が高まり、住民の皆さんも期待感を募らせてもらっています。

――会報誌「結んでひらいて」のネーミングに込めた思いをお聞かせください。

氣仙さん　「結んでひらいて」には、会報誌がずっと続いていくように、また、会報誌も生まれ変わるサイクルの一つで、次の世代の方にもバトンタッチ出来たらいいなぁ、と思いを込めました。（輪廻転生のイメージが浮かびました）

――会報誌を作成されるうえでの工夫やご苦労などはいかがですか？

氣仙さん　実は、「苦労」は感じたことがなくて、会報の出版に向けて、すべての活動に「期待とワクワク感」で一杯です。

　私が担当した最初の21号は、6団体の代表者に活動の原稿を依頼しました。ただ、実際に誌面に掲載してみると、愛読者の方から字数が多いとの感想もありました。そこで、写真は文章よりも雄弁だと悟りました。ただ、22号も写真をもっと大きくして、大胆に視覚化すればよかったと反省です。

　23号からは、企画・プレゼンテーション・レポート・紙面構成・レイアウトの手順など、編集が私に一任されました。

「よし、やってみよう」というモチベーションと、「でも完璧は目指せない。その上でベストを尽くす」と決めました。

　また、編集長下村完児さんによるご支援・協力のもと本編集を進めています。

――会報の発行でこだわった工夫は？

氣仙さん　私は内向的なので次のような工夫をしてみました。

①人的ネットワークを増やしたい。そこで、顔見知りの方や、口コミのキーパーソンを集めるように励んでいます。

②一つひとつの記事が簡潔に、要点が決まった記事にしよう。

③カット付き、大胆な見出しにしよう。

④大胆なレイアウトで、目を引き付けたい、と強く思うようになりました。

　中でも、活動組織の代表者達だけの意見を見つめるのではなく、片隅に埋もれている話題も、その人でなければ語れない、その人の言葉で届けたい、と思う場面が多々あります。

　会報誌の魅力として、制作者の個性の豊かさ、ぬくもり、自由な構成などが、意外な形で開花する点もあると思います。愛読者からは「見やすくなったね」「趣向に富んで内容の幅が広くなってきたね」といった声を頂くことが多くなりました。

　うれしいことに「ほのぼの交流定例会」が発足から25年、四半世紀に活動が表彰されました。

　そこで27号では、第74回八戸市社会福祉大会で「大会長表彰」を頂き、長年、社会福祉事業発展に貢献してきた旨の記事を掲載しました。受賞には、会報誌「結んでひらいて」の一助もあると言われ、私も嬉しくなりました。

　会報誌は、下長地区ばかりでなく、八戸市内の行政機関や担当地区の介護施設、地区の小中学校や子ども園など、関係者に毎年１０００部配布しています。

――ありがとうございます。これからも楽しい誌面、皆さんに届けてください！